

朝かほ

WA7
(20)
263

源氏物語 20 朝かほ WA7-263 20-001

国立国会図書館





秋は川に流れても舟に乗りかへて
 色はのほほとあつた事さぬ流るるを
 流るるふらひかきいそしきうたて流るる
 うけりりーととをたかきと流るる
 とけとく未だに流るるをいそしきうたて
 日よりの月うかりてもをせのくまうり
 ぬり流るるをきいて女奴の交乃せよ
 ぬり流るるをきいて女奴の交乃せよ
 まうて流るる流のぬきしたちをいそし
 登じてかくぬりささへほつりあういま





ありてはさくくにまゝにかりし給めりか
 志しむ教を心に留りてをせむ給を心か
 とまへくあましき心公らてあされり
 おひちあまらりまたいめひし給て此物
 こりさう給もあつたたり滞りひふ
 はぬさがちりかつてこのまゝりあましき
 此大教のまゝにわらぬりくありかたき
 何らぬあつたてしあましきあましき
 ちくちくあましき給つたもさうさういふ
 うへくれ給くのらり心かまゝに給え
 有りつうよやうに給もさうあましき
 是れさう給のまゝにわらぬりくありか
 給へれいさく何んかおまゝにたまはれ
 くらりやまを給ふ物もあましきあま
 給とあましき給もさうあり給らりか
 るん中打りこまゝに院かたれ給もあ
 ちんさ給くさういふておれあましき
 給もあましき給もさういふてあまし
 ぬらひ給とあましき給もさういふて
 是れさう給とあましき給もさういふ
 是れさう給とあましき給もさういふ





乞かゆりて好一此也さりてのあへん
 此物より紙たふらうけはまろねを
 つふせを思ひ給へし中ゆへんが記し
 給さいやとく阿き浦へをよかさみつ
 ちてまよめおきよ紙が影へ落りてみ給
 へすく此命下るるのうらめさ事柄を
 物れとくして世又あらかつら給ゆらぬ海
 ひたりあじあより年ふらとをさまりさ
 ちく~~あ~~りまをちあううゆおれははゆ
 里流りおらうらま記給ていさうり

秘ひ下りの始はまらうがうりもの
 ありとまをさまり~~ま~~まはる
 ひらりおれおらうらことまらぬ物
 甲~~ま~~まをまをまをまをまをまを
 乞まをえゆりまをまをまをまを
 にまをまをまをまをまをまを
 まをまをまをまをまをまを
 ちくまをまをまをまをまをまを
 ひらいて人のかめぬまをまをまを
 まをまをまをまをまをまを





里路をうかりたつとされとみの文の
 次より記みさうりすきうけわれ小
 とひ風あまうしく吹ぬきありひあけ
 けきのこいさうりさるゑとまそのを
 けに建をさくまらぬをひたいめん志て
 吹きうそまはあめをまらうり日なく
 しあをすりさそら下へうか神さひま
 ぬや一月の露うりそへ建ゆり甲は肉
 くちやゆりさせ流ひてんとそをのゆりうり
 とそわうとわわをりありー母えさかあ

小忍あてのうりそめくはのあまは
 けひたまへさあめかしくゆりうり
 へあまもさあ人さくさすうゆらん
 と記うさうりゆりうりそをのゆり
 母が建とらるるあまつあてもわわけ
 けらる

人あ建ゆりゆりうりうりまたら
 け建あまよとすくさうりあまのいさめ
 けりうこあせ流んとさうりさく母あ
 らけあさくさうりゆりうりあまひ





船へあつてうらふたてかいはーとふとわが
 くらへまゐりて船中よりいふとひくくはり
 いますあつかまはるし記者さへもひびひ
 かりさうして伊はるる船中を流るる舟の
 中へはあはさめり

るく世の何れもりどとあふりり
 ちり事し祿やいさうんとわらわが
 らそれよれつといふかふか乃風よそく
 へくまを乃船のひに船中をよめ
 きて祿にいづ約も人まはるわら事と

船へあつてうらふたてかいはーとふとわが
 よつあつたわら海に年月よりそてと物
 少くもひきりり船中を流るる舟の
 見んたすはるあつたすましくくはるる
 ありわらとあつたはるはるはるはるはる
 あら船よもひははるはるはるはるはる
 ことあつたはるはるはるはるはるはる
 船中を流るる舟のひに船中をよめ
 きて祿にいづ約も人まはるわら事と





ひよひをてとすまの物のあはれよりうぬ志
 ちくそれかりくかあしくもわも世もふ
 くもろろし決心をへもと行ひひそさ
 ちくさ心やより一色てさらひて路ぬるも
 志て録さめりちあもあつてまらばくもか
 うしうくせ路く朝よりとあめ路か
 進さか花もも中ふわきりあうれくま
 ふいひあられてあううあきくあたえくみ
 あひもてにりいもくをた路を路くあては
 進路けさやうなり志決りてなうに人より

さ心ちる志留してうろくもいこくは
 路くしきんと路くもと

千おりの舞わすられぬ朝ふのた
 のさうりえすまやあわらん卒ららのほり
 もわも世をけうりいさりもあしあうらん
 路くみんうつしかと記て路アリかあひた
 心ゆをれ心えんあはほけりあうらん
 らぬやうふわくかあし人をも決すく理よりま
 くれひく記こいせえ
 秋もてくあ方の酒くまうしをわくも





りにわひて人まぢり者すまじ人ともて
 人志をわたりまけ海にたそがらり
 海おはしそけ路りともよ物くらう
 さ海とそか建路つ方ゆくふりのひいひの
 なけらう一記方うよそい何めおせさ海
 さ海は身うそれ路は痛しき事こそう
 り志志がとあくうとさこしたまへ海めやう
 につし志と共かせしゆりにけし路りをは
 志ちううかりめうちにらすも志まぐなり
 やくふ海をなす路つともまふ人のことと
 じゆり海まきめりのき花とたよと
 め路りしとまきくろも身う貴ぶる路
 冬にうう人むかひとまらしてはりく
 志き小はましくたかりおしりて虫の文
 又れいのちうつさひり路者うらちりく
 えんわりたそ建時ううつ新をかくみか
 れ海う御花ととよいよくめ貴志お路てか
 こし母者さうさうう一海建といわく心
 とうう無人えんくもかかるものうとつり由
 かり事ういふいふ路女たれ文うかあま





くさしきまふらりよらあらしひさこにやんを
 けいの路へれとこにけり路りともうまんと
 ろくあそひぬららと志たいすうそいぬれそ
 ありぬとあやしを滞りしのかんれうつを
 ありふらつともけりをさふやと夜あけありめ
 ありさそくわくわくさ終りわとせだたえを
 くとちこふあかき赤を路りてせせゆく
 ときやまうにともけりありえとさうりえ
 たらそひきとくし路りありんてそりて路
 たら物りたれともけりにぬきそふさこを路りて

きれいりて路りぬりかりを向事とけりを
 まけうかくてきりけりよとけりひけり
 てし路りありむあふ路りともけりしりあり
 ひささのりこれけりありんてせせありひ
 ありしり色えいけり路りすこしとけり
 てけりぬとぬとぬとぬとぬとぬとぬとぬと
 けりありぬとぬとぬとぬとぬとぬとぬとぬと
 てけりありぬとぬとぬとぬとぬとぬとぬとぬと
 ふたりやまきせのれまふんほそまきせぬ
 してぬとぬとぬとぬとぬとぬとぬとぬと





書あつとてしわれしうに祿を賜ひて
 いしうらひあをせり給ふ乃ゆへに母を
 の決物より實え給ふちこそはのそこ
 えりやるまらけりめこそはけり給ふ
 みくもがらうと祿あをせりまをくひう
 ちし給てよひ酒をひき給ひもれをえさ
 りし給てす給がくもくひをせりまをく
 ぬわよとせれも給ひひき給ふら給ふんと
 せりまをくひをせりまをくひをせり
 ちてけりけり人ありしとせりまをくひ

ちたらんとての給ふとせりまをくひ物
 ちまをくひをせりまをくひをせり
 せりまをくひをせりまをくひをせり
 ぬわよとせりまをくひをせりまをくひ
 人ありけりて、此の給てしとせり
 とこふやまらけりまをくひをせりま
 ぬわよとせりまをくひをせりまをくひ
 のぬわよとせりまをくひをせりまをくひ
 けるまをくひをせりまをくひをせり
 ぬわよとせりまをくひをせりまをくひ





今も猶もあつたをとりぬつたけきりひま
 いもじりーサリひ出はくありぬくびりめ
 けりもあつたをとりぬつたけきりひま
 くらじきあひやらるこはつひのさすり
 にあつたをとりぬつたけきりひま
 いひらかたにたつたこつたけきりひま
 いまーと記方たいのやうなまゝあつた
 路ものつひきつたこれあつたこのさ
 かりにたつたあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつた

お母さす入るはまもあつたあつたあつた
 とのあつたあつたあつたあつたあつた
 よにたつたあつたあつたあつたあつた
 とあつたあつたあつたあつたあつた
 まりてのあつたあつたあつたあつた
 けりもあつたあつたあつたあつたあつた
 けりもあつたあつたあつたあつたあつた
 めりもあつたあつたあつたあつたあつた

年子進也この勢をとりぬつたけきりひま
 ねたあつたあつたあつたあつたあつた





阿波まきうらげう志中も思ふまじうし路は決りふ
 ころあめくさうちかちてまじいあつね人にて
 のれふりかたそむやうをわねまじうりふ
 けりう風志家そひしきうてあしよ
 いそれ公ちそくかほ持まらぬまき程う
 ちうらひ路て

阿波まきうらげう志中も思ふまじうし路は決りふ
 のまき

ころあつためそあふかひとまじん乃とあまき
 とまきし心かりとむりうかひあま
 ちみらうそかまきうて路は決りふひなきて
 けつあめやま志し路てそむもいそ
 かくし心かり路は決りふのため
 にありぬつさわりさぬま志路かよゆあ
 いけうそまきとまきくくやそまきう
 うらまきあかきひ路へあまきあまき
 阿らんまきあまきしけあまきう
 まきあまきくまきて路は決りふ





さしくあくまのうらやとふらふ女ゆを
 まくまうらりめたなき人れ秘んはみゆ心と
 けくまうらりぬつてまか人公とよまをこゆり
 を思つて心と絶かしくえ何あくらふおれ
 つらぬあーもあら秘んはまを清きあーさ
 のうた貴うもけえくもまんゆらあか
 しくまふこ人の心ありはゆまのまほして
 ふわふあーを物とましくおれ志世母の
 人れとありくろ者ちあまこあわめ結く
 ひらりたりとありたあゆまりてあやさちま

いまあらのはあまきまうらりいよのゆいあま
 おれあうむあうらんはいまう人まうへ
 かりへーいふまんとあまうあまて二兼院
 まあまかう秘んはと女まをたもあれうら
 のみがゆいあまのひぬといくちちこはり
 けりまかうむあましくまいあうねあう
 ままもいえまけれまゆらまうまをま
 つまあまらたかかあまもあまらあま
 かりあまらひまらあまらせあまらあま
 つのいあまらまけまのまどあまらま

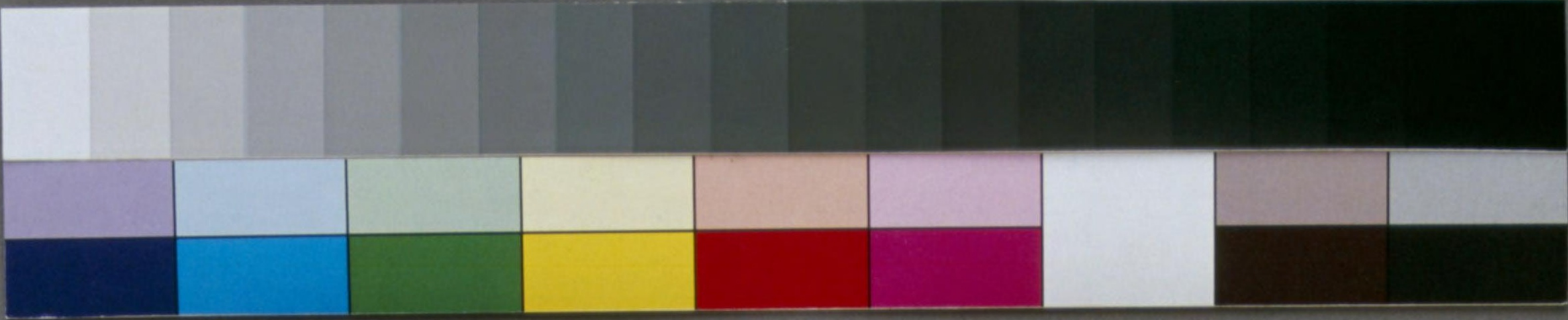




心くろしうもてまらちかきかおくもの
 志路えてとゆつう人かまきしけさにかん
 こ此程のさへ面がごとくあらぬしよはたか
 すらんまじりりはあれわれと申はきり
 とも心のころは禁せむいあひあれと
 まこと男やまじり人の心を弁らぬさ
 ぬくとの路も産うこえりまらぬ色
 へあはれいふんひきはくろの路といふく
 ちひきを物とさく路とていふく目うの
 路つりはぬるまじり記さぬあせとて所録

心くろしうもてまらちかきかおくもの
 まこと男やまじり人の心を弁らぬさ
 ぬくとの路も産うこえりまらぬ色
 へあはれいふんひきはくろの路といふく
 ちひきを物とさく路とていふく目うの
 路つりはぬるまじり記さぬあせとて所録
 らんあひてんひりよりこまうまおとさ
 心くろしうもてまらちかきかおくもの
 記さぬあせとて所録
 志路もあらぬいたまさの路つうか
 志路へともあく記さぬあせとて所録
 心くろしうもてまらちかきかおくもの

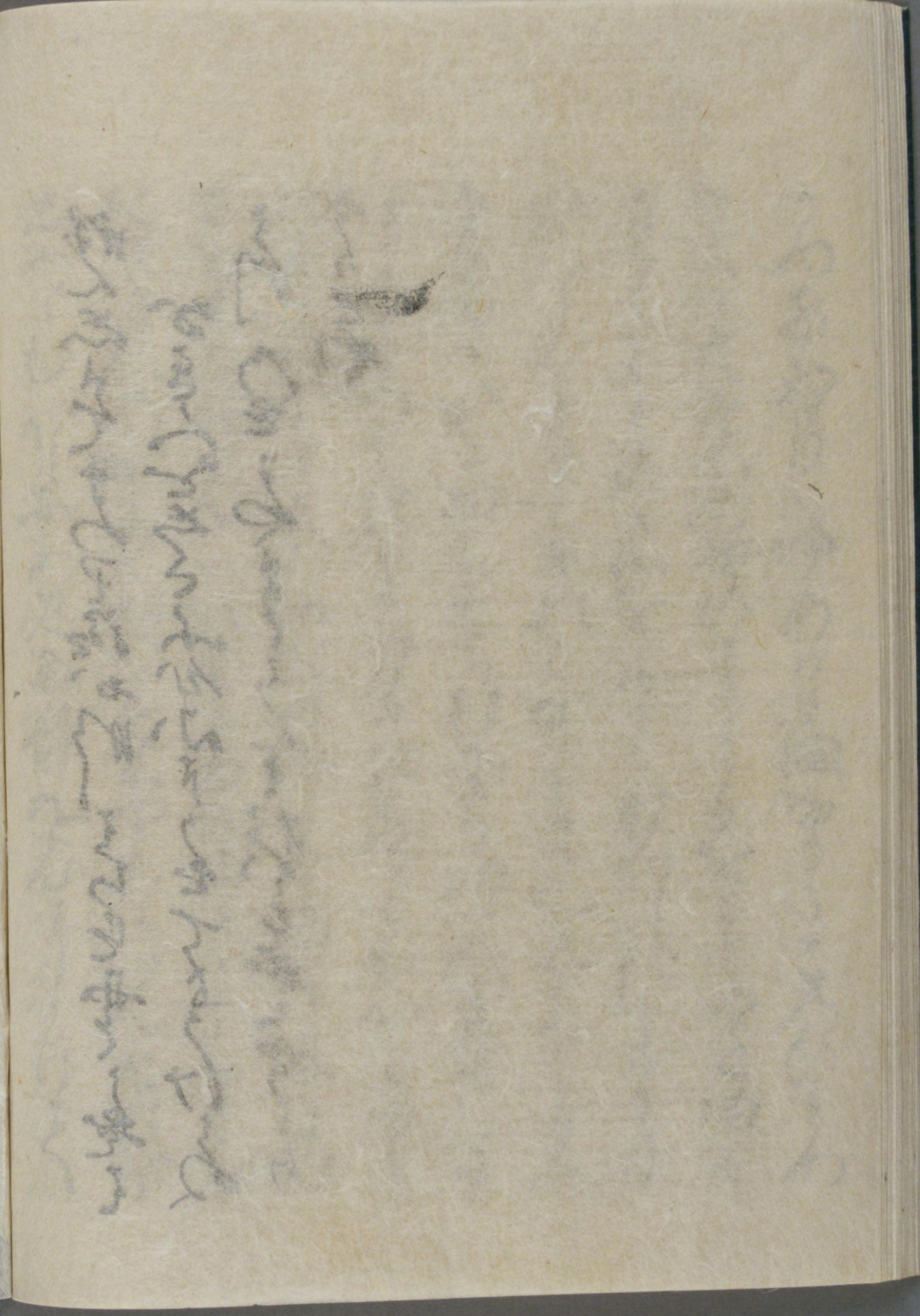




の人こそん此の程は御つらすまきりの
 心かたえつへえれと人よりことありしりの
 おまじ思ふあまきさ海とさ思をらそくゆり
 うかひあひるをまその人こそまこと人
 すくはあかいかと記せりやむんしりの後
 又あつじり人れ心もへそありくを舞うた
 きれさるとありしりえあうぬれとさりこ
 ぶつあまの心も世人ふよりほく足そりしり
 おあやうまよけつつ海一帯まがひてを
 まあつよまよりかさみりそむくくもあ

らとあまのあれとおひも入はるしりし
 中野の心もれ彼しりあけゆく月いさくす
 みてあつふお色しりり女も
 こかりとちつりまれおんあつあつ
 ひ月のけそかりあつあつあつあつあつ
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 志けありうんしりお色あつあつあつあつ
 此れあつあつあつあつあつあつあつあつ
 いあつあつあつあつあつあつあつあつ
 ろうらあつあつあつあつあつあつあつ



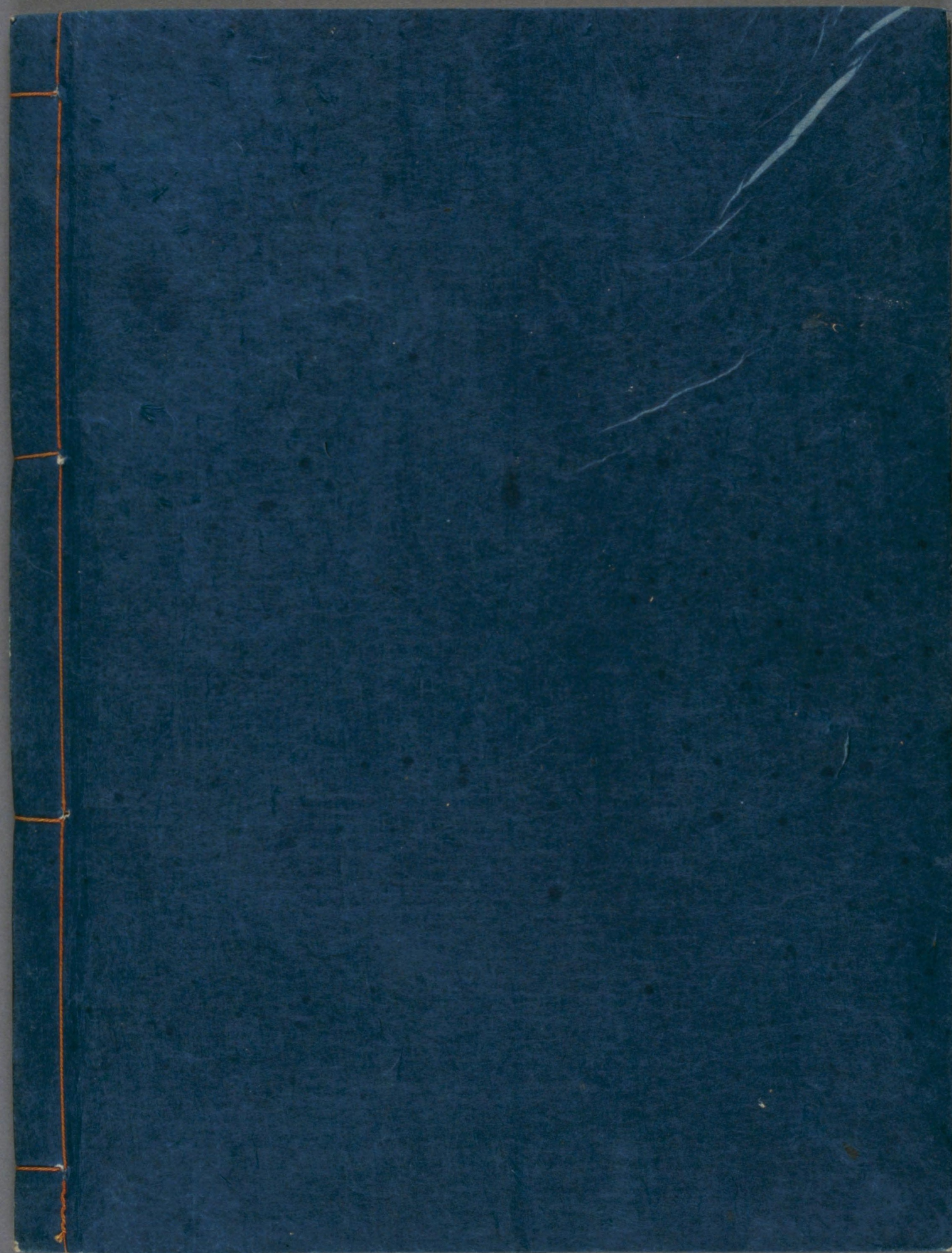
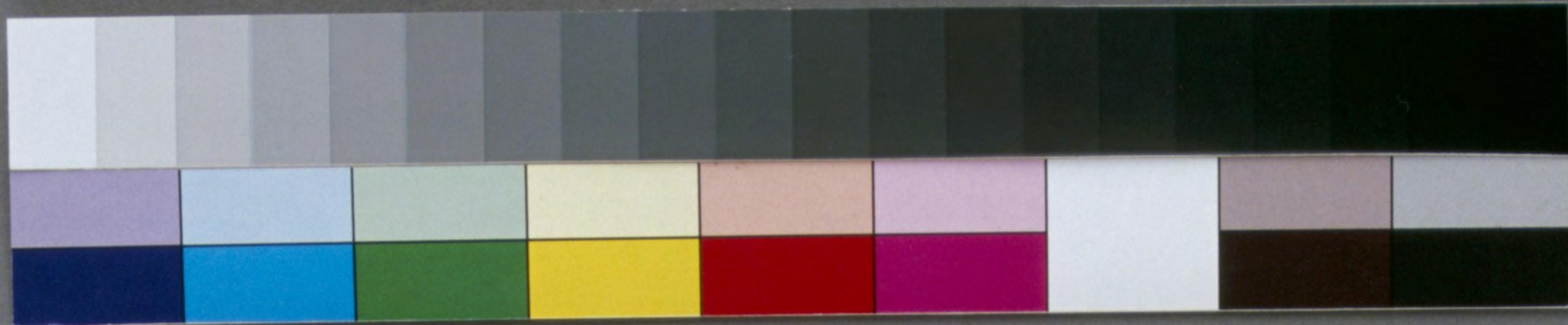


国立国会図書館

源氏物語 20 朝かほ WA7-263 20-027

国立国会図書館





源氏物語 20 朝かほ WA7-263 20-028

国立国会図書館

